

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	多摩センターこどもの家
施設所在地	摩市落合1-47ニューシティ多摩センタービル2
法人名	(株) ライフケアサービス

1. 活動のテーマ

<テーマ>

コーディネーションリズム体操教室

<テーマの設定理由>

同じビル内に全面ガラス張りのダンススタジオがあり、そこを練習拠点としているダンスチームに、子どもたちに全身運動のダンスというスポーツを通して体を動かす遊びを行ってもらえるか打診したところ、快く引き受けてもらった。全天候型のスタジオが園のすぐ近くにあるという環境の強みを生かして実現した。今では性別を問わず人気があり、学校では体育の授業でも行われるダンスというスポーツに、幼少期から慣れ親しみ興味を持てるようにすることを目的としている。また、コーチが理学的にみる筋力の発達に特化していて、ダンスだけではなく、器具や用具を使った体操教室にし、その中でリズム感を育てていくダンスも取り入れたいという強い思いがあり、実現に至った。

2. 活動スケジュール

2歳児クラスのみ月に1回、同ビル8Fスタジオにて実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

コーディネーションリズム体操を教えてくれるコーチの手配。
教室の中で必要な道具、設備はコーチ側で用意してくれる。
保護者への案内のチラシ作り、年間スケジュールの周知、水筒の用意のお願いをする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

「幼少期に最も成長する神経の働きを高める基礎運動をリズム体操の中で養い、成長期に向けてあらゆるスポーツに順応できる身体づくりの準備を理学療法士監修のプログラムで行う」という目的で専門の外部講師によるプログラムを受ける。正しい動きを子どもたちに教える事で身体の発達を促進したり、音楽に動きを合わせたりし、リズム感も同時に養う。指導内容は原則、コーチに一任している。保育者は危険がないよう見守りながらコーチの補佐をする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子どもたちは、最初はルールのある遊びに慣れず、戸惑い、泣いたりと落ち着かない様子だった。回を重ねるごとに自然とコーチの動きを真似たり、説明を一度聞いただけですぐに理解し、吸収して楽しむようになった。恥ずかしさや緊張でなかなか参加できなかった子ども、コーチや保育者がそばについて優しく声を掛けて導いたことで少しずつ参加するようになった。楽しい雰囲気の中で次第に場が和み、子ども同士で盛り上がり「かっこいいね!」「次は〇〇のポーズだよ!」「頑張れ!」など、会話をする姿が見られるようになった。最近では普段の保育中に、体操教室でやった動きなどを再現して子ども同士の会話も増えたので、体操教室が子どもたちの刺激になっているのだと実感している。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

事前のコーチとの打ち合わせですり合わせた、子どもの発達度合いに合わせた内容だったので、無理なく、飽きずに継続できているのだと思う。そして、成長に合わせ、徐々に難しい動きや遊び方に挑戦していくことでチャレンジ精神を高めることができていると思う。身体能力が高まり、できる事が増えると、更に子どもたちの興味も高まり、体を動かすことを楽しむようになったように感じる。同時に、参加意欲も高まって、運動能力が目に見えて向上しているので、普段の保育でも体操教室の動きを取り入れて行きたい。コーチの説明を聞き、子どもたちは自ら考え、その動きにアレンジを加えるようになり、それが子ども同士の会話で更なるアレンジへと変化し、新しい遊びの発見につながっていているのを見て、保育者の学びになった。